

ウムチョ ムイーザ通信

No. 5 1

ルワンダ語で「良い文化学園」の意味を表します。

～就任あいさつ～

ルワンダの教育を考える会 現地事務所責任者
アキンティジェ シンバ カリオペ



この度、ルワンダの教育を考える会の現地事務所責任者に就任させていただきましたアキンティジェ シンバ カリオペと申します。医師である私はいろいろな思いがあってこの役職に就くことにいたしました。



私は、皆さんと同じく教育は発展への柱だと信じています。そして、健全な社会には教育が欠かせません。

ルワンダの2050年までのビジョンによると、この国の経済を支えるのは「国民の教育と健康」です。

NPO法人ルワンダの教育を考える会が、いままで、この国の教育のために努力されてきたことは素晴らしいことです。その成果は本会を支えていただいている皆様のおかげと感謝しており、共に喜びを分かち合いたいと思います。

2018年も、もうすぐ終わりに近づいていますが、当会が、ADESOCの運営しているウムチョムイーザ学園の建設協力をはじめ、学校運営・教育支援・教員研修・学校給食・健康診断など多岐にわたって支援をされていることを知りました。



今後私はNPO法人ルワンダの教育を考える会の現地事務所（以下NPO TERと表記）の責任者として、いままで成し遂げてきたことをしっかり続けること、国の方向性を尊重しながら、ADESOCと共に子ども達の健康に留意して、しっかりした教育を受けさせることを心がけます。支援者の皆様と共に力を合わせてゆきたいと思います。

NPO TERはこれまで以上に現地活動に努力し、学校健康プロジェクト・給食支援プロジェクト・小学校教員の指導力向上、そして学園以外の子ども達のためにも力を入れていきます。また協力団体（行政・JICA・NGO・AMDA・ユニセフ・フェリシモ様等）と、より一層、力を合わせていきます。

新たな発展的段階に当会の活動を進めていくことを誓い、皆様と共にウムチョムイーザ学園の子ども達、さらにルワンダそして世界中の子ども達が健康で教育を受けられるように力を合わせていきましょう。それによって、私たちは平和のために寄与したという喜びを共有することができます。

これから私も一生懸命に力を尽くしてまいりますので、どうぞ温かいご支援・ご協力をお願いいたします。「教育は平和と発展の鍵」と信じて！



NP0法人ルワンダの教育を考える会ルワンダ事務所からの報告

ルワンダ支援の会計報告

* 2018 / 8 / 31 現在時価換算による

期間：2018年4月～8月

単位：円

ADESOC	ミヨベプロジェクト	算数指導プロジェクト	健康診断事業	ルワンダ事務所	計
381,505	603,322	117,760	2,449	886,547	1,991,583

※ 日本の円をルワンダへ送金すると、日々金額が変動するので、報告額を単純に比較できないので、おおよその金の動きとしてご理解願います。今回は 100 ルワンダフラン≒12.62 円で表記します。

ルワンダ事務所より

ミヨベプロジェクトスーパーバイザー 大江里佳

みなさん、はじめまして。今年6月より、ルワンダ現地事務所でミヨベプロジェクトのスーパーバイザーとして現場に駐在して活動しております大江と申します。今回はミヨベで実施されているさまざまな活動を会の皆様に知って頂けたらという事で記事を書かせて頂きます。



現在ミヨベプロジェクトでの支援の対象者が

- ① ECD&F センター（早期幼児教育施設）に通っている子ども達
 - ② その周辺地域に住むコミュニティの住民
- の2つに大きく分けられ、それに合わせて活動が動いております。

＜6月から現在まで実施されている活動＞

6月：①を対象とした給食・おかゆの提供（毎日継続実施）

①を対象としたECD&F センターへの絵本の贈呈

②を対象とした職業訓練（洋裁・刺繍・せっけんワセリン）の準備

7月：洋裁・刺繍トレーニング開始（第一期：7月～12月）

8月：洋裁・刺繍トレーニング開始式典

ECD&F センターに訪問して頂いた日本人の方よりせっけん・サッカー用具一式・

洋服の寄贈

音楽コンサート（日本・ルワンダのミュージシャンコラボレーション）

9月：②を対象とした衛生啓発活動開始

コミュニティの小学生を対象にサッカークラブ・ダンスクラブ結成

①を対象とした学校健康診断の実施

10月：せっけんワセリン作りトレーニングの実施（期間：1週間）

妊婦・授乳中のお母さんグループを対象とした農業活動開始

妊婦・授乳中のお母さんグループを対象としたおかゆの粉の提供

②を対象とした洋服の寄贈



給食支援



絵本の贈呈



サッカークラブ



職業訓練（洋裁）

7月より継続して実施されている2つの職業訓練を中心として、現場ECD&F センターの職員また訓練のトレーナーと共に、ここミヨベの子ども達に健康的な毎日を送ってもらうため、いかにコミュニティの住民たちの生活を改善し、彼らに主体性を持たせてサポートするかという事を日々議論しています。住民と毎日顔を合わせながら、彼らの背中を押していく地道ながらとても大切な過程を踏んでいく事で、将来彼ら自身で自立して生計を建ててもらう事が可能になると信じています。

TerM プロジェクト算数教育コンサルタント 廣瀬桂子



2016 年の秋に始まったこのプロジェクトが、もうすぐ終了します。この間、このニュースレターでも何度かプロジェクトの報告や説明がありましたが、今回はまとめとして、論点を絞り、出来るだけわかりやすくご報告させていただきます。

どんなプロジェクト？

考える会が提案した算数教育向上プロジェクト案が、JICA の「草の根プロジェクト」として採択され、JICA の規定や助言のもと、日本とルワンダを結んで実施されています。プロジェクトの目標は、ウムチョムイーザ小学校(以下、「ウ校」と表記)を拠点とし、ウ校のある地区全 12 の小学校の「算数教員の指導能力を向上させる」ことです。

何をしたの？

先生方の指導能力を向上させる！そんな簡単なことではありません。文化や価値観、教育環境が異なるところに、日本の制度や方法をそのまま持っていても通用しません。それどころか、現地を混乱させます。活動の内容は、学校観察をしながら、ニーズ、改善できること、残したいことを整理して決めました。教員から感じ取った「教員は新しい知識や技能を身に付けることにはとても熱心だが、時間超過など私生活を犠牲にすることはしたくないと思っている」ことを念頭に、研修内容やスケジュールを決めました。ウ校で定期的に校



内研修を開き、教員の指導能力の向上に役立つ内容を提供しました。私が現地にいない時は、現地のコンサルタントや教員リーダーにメールや電話で指示し、彼らが進行係/講師になり、講義・実習・ビデオ研修・意見交換を実施しました。終了後は、研修の報告書やビデオレターを提出してもらうことで、次回につなげました。この研修は 48 回に達しました。

地区に広めるって、どんなふう？

それまでの集大成として、今年

6 月に 2 回、ウ校を会場に、ウ校の

教員が進行係や講師となり地区教員研修を主催しました。会場の都合で各校 3 名(校長・教務主任・算数教員)と限りましたが、2 回を通して地区の全小学校からの参加がありました。

第 1 回は、校内研修を公開しました。ウ校のいつもの校内研修を参加者が参観し、その中で、ウ校ではおなじみになった誤答分析に加わってもらいました(写真右上)。ルワンダの教員は「テストをしっぱなし」が多かったので、この誤答分析は、参加者にも大うけでした(JICA Rwanda Facebook 6 月 22 日で紹介されています)



研究授業—先生も生徒も初めての経験

第 2 回は、教材ワークショップと研究授業でした。多くの教員は教材を作ることに慣れていません。

そこで Eee (Easy, Economical and Effective: 簡単、経済的で、効果あり)と称した教材を提案、実習してもらいました。日本人は、特に工夫に長けている(と私は思う)ので、ちょっとしたことでも、新しいことや技能ととらえて喜んでもらえます。(研修については同封のプロジェクト発行“TerM Newsletter”をご覧ください)

その結果は？

研修終了時にアンケート調査を行い、その後、10月に追跡調査を行いました。アンケート調査では参加者全員が、「校内研修や研究授業は、新しい知識や技能を習得でき、教員同士で学べる場だ」と気付き、「教材は身の回りにも在って、簡単に作れ、効果は工夫次第だ」との回答がありました。それを実証するかのように、追跡調査では、「～を実践している」の声がたくさん聞かれました。うれしいことに、本研修は「今までのものと違い、楽しく実践的だった」との感想があり、研修をリクエストする声が多く届いています。



研修後、修了証を手にした参加者と

考える会にとってどんなメリットが？

ここにはとても書ききれないほどのメリットがあったと思います。一番の収穫は、「ルワンダの教育を考える会」が、ルワンダの教育により深く関わることが出来たということでしょうか。

最後に

私のプロジェクトへの関りは、提案書作成から足掛け3年になります。その間、福島とルワンダ、そして私のいる静岡を何通のメールが行き交ったことでしょう。ざっと計算して5桁の万台に乗るのではないかと思います。その多くは、ボランティアながらプロジェクトの要として奮闘した阿部さんが共有しています。IT技術と会計は、プロの本田さんがその技術を無償で快く提供してくださいました。若いルーシーも時間の許す限り関わり、はっきりと意見を出してくれました。ルイズなしには、存在しなかったプロジェクトです。福島では、差し入れのお新香など手作り一品を楽しませていただき、同時に支援者の皆様の温かさを感じ取っておりました。皆様に心より感謝いたします。

旅のすすめ



群馬県 高崎経済大学

近藤凌馬

高校時代より「ルワンダの教育を考える会」でお手伝いをさせていただいておりました。今回個人的にルワンダへ初めて渡航させていただきました。私の滞在期間は飛行機の時間も含め16日間でした。

「ウムチョムイーザ学園での活動」を中心に「ギチュンビ市ミヨベ地区への訪問」を日程に組ませていただき、車で三時間ほどのファイエ市にも行きました。生活が一定以上に成り立っているキガリ市に比べ、極端に違うミヨベ地区では足りないものがいくつもあります。物資・インフラはもちろんですが、天気・気温の変化に対応できるほどの衣類を持たないことからの無意識的なストレスを抱えているなど、精神面に大きな問題を抱えています。そしてやはりテレビやネットで目にするものと、その場所で自分もその空気を感じてくることには大きな違いがあると本当に感じました。これはミヨベ地区に限った話ではありませんが、異国の地に足を踏み入れるということはネットのように一方的なものではなく出会ったお互いにとって新しいため、相手からも興味を持たれます。新鮮なもので、その場所にいるということそのものが心を動かされる出来事でした。

行けば観光地という枠を超え、自ら動くことにより何かを発見できます。



ルワンダの旅を通して

池田さちえ

ウムチョムイーザ学園、ミヨベ、ルイズさんのご家族、NPO スタッフ・・・、本当に沢山の方に出会い、学ばせてもらった 3 週間ちょっと。その中で思い考えたのは「人の豊かさとは何か」ということ。

私が思ったのは人と人がどう繋がるかということでした。心が充実していれば何もいらなくてもそうでもなく、ミヨベの人たちのように本当に食べられない生活の中では心さえ元気にならない。かと言って物があれば良いかということそれもまた違うと感じます。どんな豊かさが本当の豊かさなのか。

ウムチョムイーザ学園では、幼稚園生でもキニアルワンダ語・フランス語・英語・足し算・割り算……。難しいことをたくさん学んでいました。しかし、子ども達はいつも人なつこく、何にでも興味があります。先生方は時に厳しいですが、子ども達の素敵な姿があると心から褒め、静かな子への配慮があり、たくさんの子を抱えた母のような姿でした。厳しさもあるがそれらすべてを包み込む愛情があり人の内面が育つ現場を見せていただきました。

ジェノサイドミュージアムを案内してくれた青年は自らが被害者でありながらこれからの未来を考え語り部になっていました。たった一人の日本人(私)のためにも丁寧に案内してくれて、その姿からは同じ悲しみを繰り返したくない、自分と同じ思いをさせたくないという強い決意を感じました。今の自分の生活だけを考えていたらできない選択だと思います。



一方、今日の糧にも困っているミヨベでは食事の支援の中でも住民が思いを語り合う取り組みも始まり、よい良いコミュニティーを作るきっかけがありました。本当に本音を語り合えるコミュニティーになれば集団力でミヨベを元気にできる一歩になると感じました。

ミヨベの人たちは新しい家を与えられましたがその家には家具も食料も無い。土の上で寝ています。きちんと食べられることが一番必要で、そこから笑顔や他人と語り合える元気が湧いてくる。そうした時に本当の意味で家ができると思いました。

人として最低限度の生きる糧があって初めて言えることだと思いますが、改めて知識や物質的な豊かさに惑わされず、人と繋がり、人と生きていく心の豊かさを感じさせられた旅でした。

ウムチョムイーザ学園で過ごした時間が長いので特に思うのは、子ども達には日々の学びの中で人が好きで、相手と自分を大切にすることをずっと忘れないでいてほしいなということです。

でも、その子ども達を育てていくのは私たち大人なので大人も人が好きで生きていきたいなとも思います。私はルワンダで出会った方々、皆さんがとっても好きです。

出会った方々、皆さんに感謝です。



ムラコゼチャーネ。

Rwandaful Summer2018



毎年恒例になっている「Rwandaful Summer2018」を今年も、福島県教育会館で7月16日に「JICA二本松・福島市国際協力協会」のご協力により開催することが出来ました。

第1部ではマリールイズ理事長から現地の活動報告や昨年度から新たに始まった最貧困地区に指定されているミヨベ支援プロジェクトの様子をパワーポイントを使用して報告しました。この地区の人々が抱えている問題や心のケアをし、未来のある子どもたちとその親たちの自立をサポートしていきたいという強い思いを訴えることができました。



また、「ルワンダの教育を考える会」が取り組んでいるJICAの草の根技術協力プロジェクト（小学校教員の算数指導力向上プロジェクト）の報告があり、算数専門家の廣瀬桂子様・当会の会員でありプロジェクト実施に関わっている阿部貞夫さんが今後もルワンダの先生方の学校教育向上に力を入れていきたいとの報告がありました。



第2部では、今年2月に行われたルワンダへのスタディーツアーの参加者（当会が16年前に設立し支援活動をするキガリ市内にあるウムチョムイーザ学園に給食室を建設し、今もなお支援を続けてくださっている新潟の支援者と、一昨年から当会と関りを深めている新潟大学の学生サークルRWAN-JA：ルワンダの前部長を務めていた学生）の3名から現地での給食室で子ども達が生き



生きとしながら給食を食べ成長している写真や、滞在期間中に訪問した先々でどのような活動をしたのかなどの報告がありました。

後半は、当会の前理事を務めていた大河原伸さんが、今年4月にルワンダへ渡航した体験をもとに作曲されたウムチョムイーザ学園の校歌と趣味でされているギターを使った歌を披露し、会場が盛り上がり、フィナーレを飾ることができました。



昨年度に引き続き、福島県内外、多方面から多くの来場があり、トークや音楽をとおしてアフリカを身近に感じることでできた1日となりました。

ホールでは当会が震災後から交流のある元福島県浪江町仮設避難者の皆様による手作り雑貨の出展、JICA二本松様による世界の資料を展示したブース、ルワンダコーヒー・紅茶を使用したお菓子の提供等、多くの出店にご協力をいただきました。

今年も、ボランティアスタッフの皆様及び福島市国際交流協会様より助成金をいただいたことにより開催出来ましたことに感謝申し上げます。

〔会計報告〕

〔収入〕

助成金	100,000
考える会	130,472

〔支出〕

会場使用料	69,470
印刷代金	58,450
出演者費用	80,000
昼食交流会費用	22,552

計 230,472

教育は平和と発展の鍵！

NPO法人ルワンダの教育を考える会は以下の3つの活動をおとして、ルワンダの貧しい子ども達の支援を行っています。

1. 命と平和、教育の大切さを伝える講演活動
2. 異文化理解のためのイベント開催
3. 民芸品の販売



1. 「ADESOC」が運営している学園への支援

2001年9月に2教室で「ウムチョムイーザ学園」を開校し現在は15教室を建設することが出来ました。幼稚園生・小学生が学んでいます。建設・運営等継続して支援をしてきました。1994年の内戦を経験した子ども達は現在社会人・親になり平和を築く担い手になりつつあります。

2. 最貧困地区の子ども達の学べる環境づくりへの支援

2017年7月より、ルワンダ北部に位置するミヨベ地区の子ども達の栄養状態の改善と学べる環境づくりに行政やいろいろな団体と共に取り組んでいます。



あなたのご支援をお願いします

ルワンダコーヒー・紅茶通信販売のお知らせ

ルワンダの自立支援及びルワンダ文化の紹介の一つとして、直接コーヒー・紅茶を輸入しています。コーヒーはダックコーヒー様が日本での焙煎を引き受けてくださり、新鮮なコーヒーをお届けしています。

コーヒー・紅茶と共に「命と教育と平和の大切さ」が日本中に広まることを願っています。

コーヒー	200g	1,200円	最小購入回数	5回	(送料込み)
	コーヒーはルワンダの重要な農産物です。コーヒー栽培に適した自然環境と丁寧な作業が最高品質の生豆を生み出します。 バランスの取れた柔らかみのある柑橘系の酸味と甘み、クリーミーなコクが特徴的です。				
紅茶	50g	300円	最小購入回数	20回	(送料込み)
	紅茶もルワンダの重要な農産物です。 華やかな風味も感じられるすっきりと爽やかな紅茶です。				
発注方法			メール: info@rwanda-npo.org		



ルワンダ北部に位置するミヨベ地区の子ども達の栄養状態
改善のため継続した支援を行っています。12月1日～
12月31日まで寄付・募金をお願いします。

ルワンダ写真展開催

1年間の当会の活動報告 2019.1.4～1.8 福島市内

☆各種振替口座番号のご案内です！☆

会費振込・寄付・募金 (ルワンダへの支援をよろしくお願いします)

郵便振替口座：02290-0-97126

加入者名：NPO法人 ルワンダの教育を考える会

会費 1口
5,000円



【ゆうちょ口座自動振込み寄付】 月一口500円から

ホームページ掲載 目標100名まで継続して募集します。現在60名登録

事務局では、事務局スタッフ及び各種イベント開催時、お手伝いくださる方を
随時募集しています。一緒に楽しみませんか。連絡をお待ちしています。

—編集後記—

今年を振り返ると、山口県周防大
島が記憶に残りました。スーパー
ボランティアの活躍・断水。みか
ん農家が困っていると知りさっそく通販
で1箱購入！



T.S

NPO法人ルワンダの教育を考える会

理事長 永遠瑠マリルイズ



〒960-8036

福島県福島市新町 8-21

TEL:024-563-6334 FAX:024-563-6335

ホームページ:<http://www.rwanda-npo.org>

メール: info@rwanda-npo.org